

●大事な体のコトを考える●

日々の健康医学講座



今号担当
今井内科胃腸科クリニック院長
今井 英人

第609回

長引く咳にご注意ください

「咳喘息」の症状と治療について

咳喘息は、呼吸困難や喘鳴を伴わない咳が主な症状で、自覚のない方が多い病気です。

皆さんは風邪をひいた後、なかなか完治せず、咳だけがずっと続いていた経験はありませんか？このような咳は、時間とともに消失していくことが多いのですが、なかには風邪がこじれて肺炎を起こしかけていたり、結核や癌などの病気が潜んでいることもあり注意が必要です。そして、もうひとつ注意をしなければいけないのが、風邪をきっかけに症状が表に出てきた、気管支喘息や咳喘息です。気管支喘息は症状も特徴的で慢性的に続くため、自分が気管支喘息と自覚している方が多いと考えられます。しかし、咳喘息は自覚のない方が多く、なかなか診断がつかないこともあります。そこで今回は、咳喘息についてご説明します。

●咳喘息とは？

気管支喘息は気道が収縮して狭くなり、呼吸が苦しくなる病気で、息を吐くときの苦しさと、ゼーゼーという呼吸音（喘鳴といいますが）が特徴です。一方、咳喘息は、呼吸困難や喘鳴を伴わない咳を、主な症状とする病気です。気管支喘息、咳喘息

ともに気道過敏により、慢性的に気管支の粘膜で炎症が起こっていることが原因ですが、咳喘息は気管支喘息の前段階のような病気で考えられています。咳だけ出ていて呼吸困難がないのに、喘息といわれると信じがたいかもしれませんが、このような方は以外に多く、痰を伴わない慢性的な咳の原因としては最も多いといわれています。

●咳喘息の治療

咳喘息の治療は、気管支喘息の治療と似ています。ただ、気管支喘息のように重症の発作を起こしたり、呼吸困難で窒息してしまったりすることはありませんので、症状の経過を見ていきながら、余裕を持って治療をしていくことが可能です。薬としては気管支拡張剤や鎮咳剤、抗ロイコトリエン薬などを中心に治療を行い、症状がひどい場合には吸入ステロイドなどを併用することが多いようです。ただし、咳が治まったからといって、勝手に治療を中止してしまうのは、あまり良いことではありません。

咳喘息の病気の経過については、おおまかに1/3がそのまま咳喘息にとどまり、1/3が気管支喘息に移行し、1/3でその症状が消失す

るといわれています。つまり、咳喘息の2/3は治らず咳が続きますので、計画的に治療を継続することが必要です。

※

咳喘息は風邪をひいた後だけ、症状がひどくなるわけではありません。季節の移行やストレス、疲れなども誘因となり得ます。普段の生活を規則正しくすることや、風邪にからまないように、手洗いやうがいなどの予防策を心がけるようにしましょう。そして、咳が長く続くような時には、一度、医師の診察を受けていただくことをおすすめいたします。



●内科●胃腸科●小児科●老人科●人間ドック併設

医療法人

今井内科胃腸科クリニック

院長 今井 英人

〒465-0097 名古屋市名東区平和が丘5丁目27番地
TEL&FAX 052-771-3322(代)

